

### 第3・4学年 図画工作科学習指導案

日 時： 平成29年10月27日2校時

場 所： 大谷小学校 体育館

指導者： 新宮 厚

1. 題材名 広がれ組み組み！ [A表現(1)造形遊び, B鑑賞] 全3時間

#### 2. 題材の目標

- (1) ダンボールを組み合わせることでできる新しい形を楽しみ、意欲的に造形活動に取り組むことができる。  
(造形への関心・意欲・態度)
- (2) 組み合わせてできた形を基に立体的に広げる活動を思いつくことができる。  
(発想や構想の能力)
- (3) ダンボールの空間の広がりを意識して切り方や組み合わせ方を工夫することができる。  
(創造的な技能)
- (4) 組み合わせることで変化する形の面白さを感じ取ることができる。  
(鑑賞の能力)

#### 3. 題材設定の理由

##### (1) 題材について

ダンボールは児童にとって加工のしやすさと丈夫さを兼ね備えた身近な材料である。これまでも図画工作科だけでなく行事等でも触れる機会が多く、扱い慣れている。本題材はダンボールを組み合わせることで立体的に広げ、できる新しい形や、その活動を楽しむ造形遊びである。ダンボールを部品として、これに切込みを入れて組み合わせると新しい形ができる。二つのダンボールを組むと平面だった形は立体的になる。これを続けるとできた形はどんどん空間的に広がり、形も変わっていく。また、大きくする際には複数で組んだり、ダンボールを折り曲げてから組んで丈夫に固定したりするなど工夫する必要がある。さらに、ダンボールを組んで加工することは簡単で、いろいろな方向に切れ目を入れて組んだり組み直しをしたりと、自分の発想や構想を形にするのが容易である。これまでダンボールは平面的な使い方やそのまま箱として利用することが多かったが、本題材を通して、ダンボールの新しいよさを実感し、できる立体的な形や部品の組み方について発想や構想を広げて創造することができるものとする。

##### (2) 児童について

… <個人情報保護のため省略> …

### (3) 指導にあたって

本校の研究主題「かかわり合い、やる気をもって取り組む子どもの育成」における「やる気をもって取り組む」姿とは自分の思いや願いを大切に、それを形にしようと児童が対象にかかわっていかうとすることだと捉える。本題材は材料に切込みを入れて組む限定的な操作だけで対象の姿を変えたり、変わっていく変化を楽しんだりするものである。単純だが、その中でいかに工夫するかが重要になる。自分の思いを形にするため、思ったように組めるようにするため発想や構想を何度も繰り返し試し、主体的に取り組む姿が現れるのではないかと考える。

○指導にあたって本校の研究の仮説から次の視点について工夫したい。

仮説1より 「表現したいもののイメージが広がり、意欲的に取り組んでいく」、そのために

- 1-①題材との出会わせ方を工夫する
- 1-②一人一人が材料と十分にかかわる試行錯誤の時間をもつ
- 1-③子ども達の気づきや発想したことをことばに表す支援をする

材料は使い慣れているダンボールである。これを使ってどのような活動をするのか、活動への期待感が高まる出会いとしたい。造形遊びでは、材料にしっかり触れ、そこから感じたことをもとに活動を楽しんでいく。題材全体を通して材料のダンボールを組んだり組み直したり、児童が材料とかわる姿が試行錯誤することにつながると思っている。児童が活動を始めたらできるだけその手を止めることなく活動させたい。その中で自分が表現したいイメージが生まれ、次にどのようにしようかイメージが広がったりするように児童の気づきや発想の言語化を促す。児童の中で漠然としていたイメージを明確にしたり、活動の方向性が見えたりすることで主体的に取り組む姿につなげたいと考える。

本時は題材の導入部であるので、何を使うのか、どのような活動をするのか学習内容の伝え方でこれから始まる学習の期待感を高めたい。そのために題材名と、材料との出会い方について工夫を行う。

題材名を活動のイメージにつながる「広がれ組み組み！」とした。「広がれ」という部分から空間を意識させ、「組み組み！」の部分から活動につながるイメージを持てるように考えた。

材料と出会う場面では6月の学習で用いた「はてなBOX」を使う。はてなBOXとは、中身の見えない大きめの箱で、その中から材料を登場させるために用いた。本時でもダンボールの部品を入れ、そこから登場させることで「今回は何を使うのかな」「どんなことをするのだろう」という期待感が高まる出会いにしたい。

試行錯誤の時間では、ダンボールを組む起点となる土台の箱を用意する。そうすることで、児童が面のダンボールを立たせることに手間取らずにすむ。また、起点が決まることでダンボールを組む活動が自然とその上に空間的に広げていく事になると考えた。土台の上にダンボールを組んで立たせることだけでなく、組み方を工夫して水平方向へ伸ばすことなど、いろいろな工夫を試すことができるのではないかと考える。

子どもたちは材料や題材名、めあてなどをもとに発想を広げ活動していく。活動の中で、生まれる「こんなことができそうだ」、「〇〇のようにしたいのだけど」という思いをことばにさせることで、活動をより具体的なイメージにすることができるのではないかと考えた。教師が「この後どんなふうにできそう?」「今日のめあてをもう一度読んでごらん」などと投げかけてことばを引き出すことで表現したいイメージがはっきりとするのではないかと考える。また、ふり返りをワークシートに記入する際に自分の思いを言語化することで自分の中で次の活動を確認したり、ふり返りの内容を友だちと交流することで次時に向けて意欲をつなげたりする姿を期待したい。

授業のふり返りで毎時間ワークシートに活動の様子や、次の活動に向けた思いなど視点を決めて記録させる。ワークシートに教師が授業のねらいにそったコメントや励ましを載せ、このやり取りを次時の初めに紹介する。本時の中では紹介できなかった児童の気づきや、表現のポイントを第2次で全体に示すことにより、再

度新しい発想を取り入れて造形遊びに取り組めるのではないかと考える。

仮説2より 「自他のよさや違いを生かし合い、より豊かな表現ができる」、そのために  
 2-①友だちや友だちの作品とかかわる場をもつ  
 2-②一人一人の表現のよさを認めたり広げたりする声がけを工夫する

児童が感じる材料の特性や発想は発達段階や経験の違いなどからそれぞれ異なったものになる。活動の中で友だちや友だちの作品とかかわり、お互いの良さを感じながら交流することで児童のもつ表現はより豊かなものになると考える。本学級は少人数複式であるのでこの関わりの場の持つ意味はとても大きい。また、活動の中でそれぞれの表現の良さが認められたり、教師が周りに広げるような声がけを行うことで児童は自分の表現に自信をもったりさらにより表現を求めて活動を続けたりしてくのではないかと考える。

本時では活動の際の場所と声がけの仕方について工夫を行う。

場所についてはこれまでの児童の活動傾向から意図的に児童の座る場所を指定し、自然にかかわりが生まれるようにしたい。そこで、材料となるダンボール置き場を体育館会場の中心にし、これを囲んで4人が活動するようにする。そのことで、児童が立ち上がったたりダンボールを取りに移動したりする時に友だちがどのような活動をしているのか自然と視界に入り、教師の声がけが対象の児童以外にも聞こえるようになるなどかわりが生まれやすい状況となる。ダンボールをうまく固定できなくて困る場面や、組む時のダンボールの組み合わせで悩む場面などで児童同士がかかわりあって解決につながるような姿を期待したい。

声がけについては、活動の様子を多角的に見ることで広げる空間を意識できるような助言、お互いの活動の様子を見合う際に空間の使い方や組み方の工夫について視点が向くような発問を行う。特に本時の終末の伝え合いでは、活動の面白さについて問うことで、児童のこだわった部分や活動自体の面白さがクローズアップされるようにする。その中で高く組み上げられたことや大きく広げられたこと、そのために倒れないように組み方を頑丈にしたことなどキーワードになりそうなことばを引き出したり、評価したりするようにする。そのことで自分とは違う表現の面白さや新しい発想を取り入れることができる場となるようにしたい。また、具体的な形にこだわりやすい4年生と、組む活動自体をしっかり楽しめる3年生の両方のよさを教師が認め、造形遊びのよさを感じられるようにしたい。

#### 4. 評価規準

##### (1) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
ダンボールを組み合わせで形が大きく変わっていくこと、広がっていくことを楽しもうとしている。	ダンボールを組みながら、次に形に組んでいくダンボールの組み合わせや向きなどを考えている。	ダンボールを組みながら組むダンボールの切り方や丈夫な組み方を工夫している。	友だちや自分の作ったものを鑑賞し、形の面白さや工夫を感じ取っている。

(2) 題材の指導計画と評価計画 (全3時間)

	ねらい ・学習活動	評価規準(方法)			
		造形への関心・ 意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
一次 1 (本時)	ダンボールを組み合わせて形が大きく変わっていくこと、広がっていくことを楽しむ。 ・ダンボールの組み方を知り、つないでいくことのできるいろいろな形を試す。	ダンボールを組み合わせて形が大きく変わっていくこと、広がっていくことを楽しもうとしている。 (観察・対話・発言・ワークシート)			
二次 2・3	協力してダンボールを組んだり新しい組み方を考えたりして活動を広げることができる。 ・組んだものを見てその先の活動を考える。		前時の活動をもとにして新しい組み方を考え、ダンボールの組み合わせや向きを考えようとしている。 (観察・対話・作ったもの)	丈夫なダンボールの組み方や立体的に広げるための工夫をしようとしている。 (観察・対話・作ったもの)	
	友だちや自分の作ったものを鑑賞し、形の面白さや工夫を感じ取ることができる。 ・組んだものについて友だちと話し合ったり、さらに形を変えたりする。				友だちや自分の作ったものを鑑賞し、形の面白さや工夫を感じ取っている。 (対話・ワークシート)

5. 本時の学習 (1/3)

(1) ねらい

- ・ダンボールを組み合わせて形が大きく変わっていくこと、広がっていくことを楽しむ。

(2) 展開

時間	学習活動	教師の支援と●評価
5分	1.材料と出会い、学習の見通しをもつ ○題材名「広がれ組み組み！」を知る。 ○○が広がるって、聞くとどんな感じがするかな。 「体操の時みたいに横に広がる」 「いろいろな方向に伸びていく感じ」 「横だけじゃなく上や下へも」 ○材料と切込みを入れて組むことを知る。	○「広がる」のイメージを確認する。 ・体を縮め、そこから大きく体を広げてみるなどイメージを持たせる。 ・けむりや花火、水にたらしした絵の具などイメージの助けとなるものを伝える。  ○「はてなBOX」からダンボールを登場させる。 ○ダンボールを組むやり方を見せ、組み方、ダンボールの使い方質問に答える。

	<p>○本時のめあてを知る</p>	<p>○活動の場を指定する。(ダンボールの土台, 部品のダンボール等) ○安全上の留意点を伝える。(ダンボールカッター, ダンボールを切るための角椅子の使い方等)</p>
<p>30分</p>	<p style="text-align: center;"><b>ダンボールを組んで大きく広げよう</b></p> <p>2.ダンボールの土台にダンボールを組んでいく。</p> <p>土台にダンボールを組んで, どんどん大きく広げていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールを切ったり, 切込みを入れて組んだりする。</li> <li>・組む場所や, 切込みを入れる方向の工夫。</li> <li>・高く組めるように頑丈にする。</li> <li>・途中で, 組み替えたりやり直したりするなど修正を行う。</li> </ul> <p>「組む部品を大きくするとよさそう」 「高く組んだら倒れそう」 「○○の形にしよう」</p>	<p>○ダンボールをどんどん組んだり, 大きくしたりしている姿を評価する。</p> <p>○傾いたり, 上手く自立しなかったりして困る様子が見られたら, 周りの友だちに相談したり参考にしたりにするように声を掛ける。</p> <p>○土台から大きく広げていくための部品の選び方や組み方について, どうすればよいか考えるよう助言する。</p> <p>○空間的な広がりを意識できるように周りや離れた場所からながめるように助言する。</p> <p>○活動を肯定する声が行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい部品を組んだら, ぐんと「広げた」んだね。</li> <li>・いろいろな向きにつなげて「広げて」いるんだね。</li> <li>・高く組んで, 上に「広げる」ことができたね。</li> </ul> <p>○形にこだわりすぎる姿が見られたら, めあてを確認させる。</p> <p>●ダンボールを組み合わせて形が大きく変わっていくこと, 広がっていくことを楽しもうとしている。(観察・対話・発言)</p>
<p>5分</p>	<p>3.活動してできた形に目を向け, 活動の中で感じたことや気付いたことを伝え合う。</p> <p>ダンボールを組んでみてどんなことが面白かったですか。</p> <p>「自分の背と同じくらいまでいった」 「いっぱい組んでいくのは大変だったけど, 最初の土台からこんなに広げられた」 「途中倒れそうになったけど, なんとか上手く高く組めた」</p> <p>友だちの組んだ形で, いいなと思うところはないですか。</p> <p>「自分とは違う組み方をしている」 「高いけど, 丈夫そう」</p>	<p>○それぞれの活動の様子が見えるように, 児童を移動させたり, 組んだものを動かしたりする。</p> <p>○キーワードとなることばを拾い上げたり, 引き出したりし板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広げるために…ダンボールの使い方(向き, 大きさ, 数)</li> <li>・両方のダンボールに深く切込みを入れる。</li> <li>・組む時, 縦だけでなく横に組む。 など</li> </ul>
<p>5分</p>	<p>「いろいろな方向に広がっているのがいい」</p>	<p>○ワークシートには次にやってみたいことを中心にふり返りをするように声をかける。</p>

<p>4.まとめ ワークシートをもとに本時のふり 返りを行う。</p>	<p>○ワークシートが書きにくい場合は板書を見るように声をかける。</p>
---	---------------------------------------

#### 6. 本時の評価

観点	十分と判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を要する児童への手立て
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間的な広がりを意識していろいろな方向へ大きく立体を組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いついた形に向け、いろいろ試しながら大きくダンボールを組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上手く組めない場合、友だちの組み方を参考にさせる。</li> <li>形にこだわりすぎる場合は自分の活動とめあてのことばの内容を比べるよう助言する。</li> </ul>

#### 8. 研究の視点

- 材料との出会わせ方の工夫・めあてのことばによって、児童の活動してみたい気持ちが高まったか。
- 終末でのふり返り、キーワードの板書などは次時への意欲につながるものであったか。